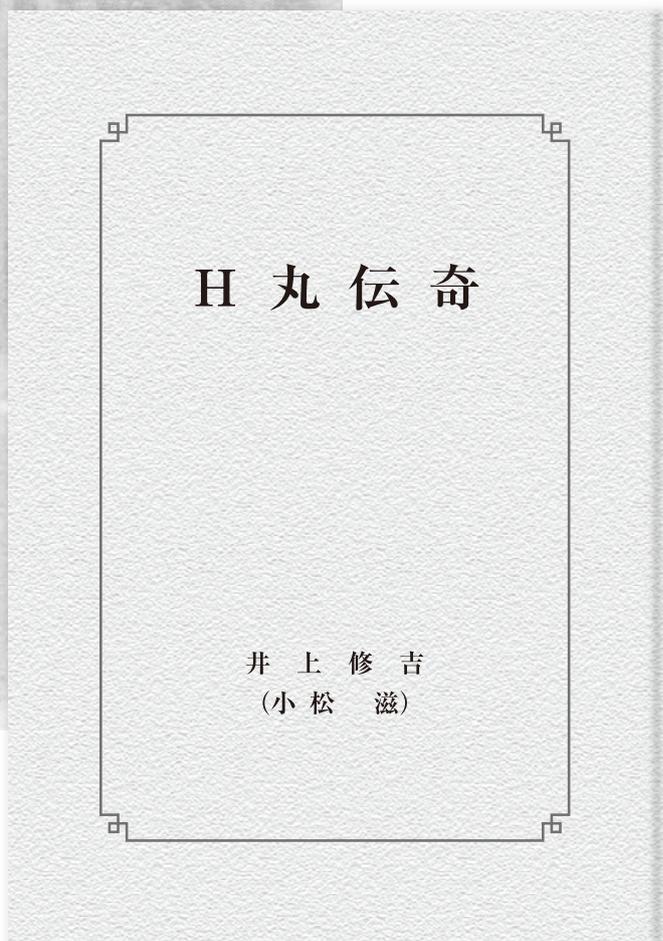


幻の作品 七十数年ぶりに復活

# 「H丸伝奇」

井上修吉 (小松 滋) 著



**B6判**

70P 並製本

**定価1,000円**

(消費税・送料込)

故井上ひさしさんの父、井上修吉は戦前、現山形県川西町小松において薬局を営む傍ら、文学青年でもあり、作品「H丸伝奇」は昭和10年(1935)「サンデー毎日」大衆文芸第1位入選を果たしました。しかしながら14年(1939)わずか34歳で亡くなり、小説家として活躍する夢は断たれました。そしてその作品も、一度も出版されることがなく、忘れ去られてしまいました。今、井上修吉の作品が、七十数年ぶりによみがえります。

発行：山形謄写印刷資料館

発売：中央印刷株式会社

〒990-0051 山形市銅町1-1-5

TEL.023-631-5533 FAX.023-631-5535

URL <http://www.chuo-printing.co.jp>

E-mail [goto@chuo-printing.co.jp](mailto:goto@chuo-printing.co.jp)

担当：後藤卓也

# 井上修吉 (小松 滋) 著

## 「H丸伝奇」「プリントの書き方」復刻にあたり

山形謄写印刷資料館 館長 後藤 卓也

平成22 (2010) 年4月にNHKのディレクターの方から突然電話がありました。4月9日に亡くなられた井上ひさしさんと父親井上修吉についての番組を企画している。そして井上修吉が昭和5 (1930) 年に雑誌「戦旗」に「プリントの書き方」と題して謄写印刷の方法について小論を載せていて、ガリ版印刷を実演しているシーンを撮りたいので協力してくれないかというものでした。井上修吉による「プリントの書き方」はだいぶ前に山形大学教授の方からコピーをいただいたことがあり、その存在は知っていました。その週の土曜日に撮影スタッフが行くので実演してほしいとの正式な依頼がありました。

山形市内に「山形謄写印刷資料館 (山形ガリ版資料館)」があります。これは私と亡き父後藤義樹が平成8 (1996) 年に設立したもので、四十平方メートルあまりの館内に所蔵点数一万二千点あまり、日本一の規模と自負しております。番組協力をお約束しました。以前にも「開運なんでも鑑定団」や様々な番組に出演した事はありますが、全国放送のテレビで演技をするのは生まれて初めてでした。

私扮する井上修吉が「争議ニュースを刷つてゐる処へガサの不意打を食つたとしても、遅鈍な×達が××をがちやつかせて上つて来る頃には、既に我々は謄写版を小脇に抱えて、次の安全地帯へと跡白波なのである」というナレーションにそって戦前のA4版が印刷できる大きさの印刷機で労働組合の印刷物を次から次から印刷し、突然器材等を手速くしまって「小脇に抱えて」薄暗い部屋から逃げていくというもので、わずか十秒ほどで顔が出るわけでもなく、印刷している手と、逃げていく後ろ姿のみが放送になるだけです。演技が下手だからか何度も撮り直しを重ね、わずか十秒程の撮影に二時から始め、終わったのが六時を過ぎていました。

この番組は6月6日にNHK教育放送E TV特集で、「あとにつづくものを信じて走れ～井上ひさしさんが残したメッセージ～」という題で放送されました。内容は最晩年の井上ひさしさんが全精力を傾けて書き上げた「組曲虐殺」の主人公小林多喜二とプロレタリア活動も行い、警察に検挙されたりもして、五歳の時に死別した父井上修吉とを重ね合わせたというもので、この番組でわずか十秒ながら井上修吉を演じたことがきっかけとなり才能を十分に開花することなく若くして亡くなった井上修吉の著作を世に出す企画が始まりました。

井上修吉は、明治38 (1905) 年、山形県東置賜郡小松町 (現川西町小松) に生まれ、県立山形中学・東京薬学専門学校を卒業後、東京での病院勤務を経て昭和4 (1929) 年郷里小松町で薬局を開業。地域の文化的活動をしていた傍ら小説等を書き、「小松滋」の名で応募した「H丸伝奇」がサンデー毎日大衆文芸小説第1位入選をはたしました。この時の第3位が後の文壇の大御所となる井上 靖でした。「小松滋」の筆名は、東京の病院で知り合い、駆け落ち同然で結婚したマス夫人との間に出来た三人の男の子 (滋・厦 (ひさし・後の井上ひさし)・修佑) のうち長男滋の名と、小松町の小松を合体したものと考えられます。しかしながら結核性カリエスの為に昭和14 (1939) 年6月16日、34歳の若さで病没しました。

NHKディレクター氏から、番組でも紹介された「H丸伝奇」が掲載されたサンデー毎日昭和10年10月13日号のコピーをいただき読みました。これが面白くて、「プリントの書き方」とともに、何とか世に出せないものかと思いました。おそらく井上修吉、もしくは小松滋の名前で本になったことは今まで無かったのではないのでしょうか。井上ひさしさんが亡き父井上修吉のことを思い「組曲虐殺」を創ったその情熱を、同じ山形県に生まれ育った一人として伝わるものを感じ、井上ひさしさんの一周忌である平成23年4月9日刊行を目標として出版計画がたてられたのでした。古本の検索サイト「日本の古本屋」でサンデー毎日昭和10年10月13日号と「戦旗」1930年3月号の復刻版も入手することができ、井上修吉作品集の制作が始まりました。

才能がありながら、時代の波にほんろうされ、無念の中で若くして亡くなった井上修吉。亡くなってから七十年以上が経過し、その作品は再び世に出ることができました。井上ひさしさんとは、亡くなる前年六月に山形市シベールアリーナで「本多猪四郎と山形を語る」講演会を拝聴しただけで、お目にかかってお話しさせていただく機会や、お手紙を出したりしたことが全く無かったことが本当に悔やまれますが、井上修吉作品が七十数年ぶりに世に出ることに対して、冥界の井上修吉さんも、井上ひさしさんも喜んでくれるのではないかと考えております。製作の途中に東日本大震災が起り、その対応に追われる日々が続く、目標としていた井上ひさしさんの一周忌までには完成できませんでしたが、「H丸伝奇」「プリントの書き方」復刊についての経緯とさせていただきます。

----- (キリトリ) -----

### 「H丸伝奇」申込表 (FAX.023-631-5535)

申込月日		住 所	郵便番号	—
冊数(金額)	冊( 円)			
氏 名	(ふりがな)	電話番号	—	—
		FAX番号	—	—